



野口実乃梨 議員 津川小  
近藤樹莉 議員

## 各 地域から市街地への巡回バスがあれば

イベントが市の中心地で行われることが多く、家族に連れて行ってもらうのが難しいです。参加したいイベントがあっても、家族の都合が悪いと参加することが難しいのが現状です。

広範囲の地域巡回バスがあると、私たちの地域からでも、目的地付近まで乗り換えをしなくても、簡単に移動することができると、イベントなどに参加しやすくなると思います。

他の市では、もっと広範囲で運行している循環バスがあるそうです。ぜひ、高梁市でも広範囲に運行する地域巡回バスを作って、もっと便利に移動できるようにしてください。

## 高 梁市の魅力を伝えるための施設が必要では

高梁市には、きれいな山や川、備中松山城をはじめ、歴史的・文化的な観光地が数多くあり、伝統的なお祭りや楽しいイベントもありますが、市外の人には知らない気がしています。

高梁へ来た人に立ち寄ってもらえる中心施設を造ってはどうか。高梁の偉人山田方谷について紹介するコーナーや、有漢町にも「石の風車」や楽しいイベントがあることを知ってほしいです。

中心施設を作り、市内のさまざまな場所や市内で活躍している人をネットワークで結ぶことで、さらに多くの人に高梁市へ来て、楽しんでもらえるのではないかと思います。

戸田千香子 議員 有漢西小  
佐倉花梨 議員



交通手段をどう確保するかは高梁市の大きな課題です。買い物や病院に行くことのできる環境は、安心して暮らすために欠かせないことです。

日曜日の運行については、あまり考えていませんでした。免許を持っていないお年寄りの通院や買い物、小学生や中学生、高校生の通学に力点を置いていたので、土・日曜日はバスの便も減ります。イベントのための交通手段というのは、今までと違った新しい視点として加えていかなければならないと考えています。良い提案をいただければ、いろいろ議論をしていきたいと思っています。

皆さんが土・日曜日に、電車に乗る時にも、電車で接続できるような運行も必要だと思います。

バス利用は、人口が減ると利用も減るという視点が強かったのですが、イベントに利用するとか、新たな視点としてこれから取り入れて考えたいと思います。

皆さんが家族とバスを使っていろいろな所に行ってみて、ここが不便だとか、ここが良かったとかということがあれば、教えてほしいと思います。

〔答弁・近藤隆則市長〕

情報の発信力が必要だと考えています。最近では、SNSなどのいろいろな手段を使って、あらゆる所に発信ができるようになってきました。

さまざまな手段を使って、発信することが、まだまだ弱いと考えています。情報発信をするときには、市役所の中でバラバラに発信してはだめで、情報の一つにまとめて、的確に配信していくことが大事だと思っています。そういう仕組みを作らなければならぬと思っています。また、市役所以外の人が情報を発信するときも、それを共有できるようにしていきたいと思っています。

備中高梁駅の隣に図書館を中心とした複合施設を建設して、来年の12月に完成する予定です。その中に、市全体の観光案内をしたり、特産品の販売をしたりするコーナーを設けていくと思っています。高梁の偉人を紹介することもできるのではないかと思います。

駅や施設を利用する人が、そこに立ち寄ってもらえると、高梁市のことがかつてもらえ、行きたい所へも案内できるといふようなことを考えています。〔答弁・近藤隆則市長〕



安田大輝 議員 川上小  
榎 一葉 議員

## 渡り拍子を高梁市のPRに使うには

私たちのクラスには「渡り拍子」という伝統的な踊りに取り組んでいる人がたくさんいます。しかし、一生懸命に練習してきた渡り拍子を見に来てくれる人が、とても少ないことになってしまっています。

私たちは、渡り拍子を受け継いでいることに誇りを持っています。渡り拍子を高梁市でもっとPRしてもらえないでしょうか。各地域ごとに特色のある渡り拍子が、一堂に会するような祭りをするなどしたら、観光客も呼べるのではないかと考えています。

ヒルクライムで発表する機会や、踊りを体験してもらったりすれば、もっとPRできるのではないのでしょうか。

〔答弁・平田守教育長〕

## 小 学校周辺の道路幅を広くできないか

川面小学校周辺や、交通量の多い道路の道幅を広げること、車を運転する人や、通学する園児と児童が、より安全に安心して、生活できるのではないかと考えています。

特に全校児童が通る校門の横は、道幅が2.5メートルしかなく、車が私たちの50センチ幅を通過して行きます。登校の時間帯は、通勤時間と重なるので、狭い道を多くの車が走ります。中にはスピードを出す車もいるので、怖くなる可能性があります。

低学年の子を安全に連れて行かなければならぬ私たちがとって、道幅が広いと、もっと安心して登下校できるのではないかと思います。

西森翔真 議員 川面小  
佐藤 楓 議員



郷土芸能は、大切な文化財として保存して、それを後世に伝えていかなければならないと考えています。皆さんが、渡り拍子を後世に伝えていこうという、担い手としての自覚を持って活動していることを頼もしく思います。

渡り拍子を観光PRに活用できないかとのこと、とても良い案だと思います。市内には、渡り拍子の伝承団体が25団体あります。それぞれ歴史があり、所作や衣装などに独自性があり、一堂に会して舞うことも非常に良いことだと思っています。まず手始めに、地域で行われている、ふるさと祭りや文化祭などで上演してみてもいいでしょうか。市としても、ヒルクライムの前夜祭などのイベントに、渡り拍子の皆さんをお呼びするということも考えていきます。

渡り拍子は、今日まで地域の皆さんが努力されて、それが脈々と受け継がれている歴史があり、地域の宝でもあります。この宝を、後世に伝えていかなければならないと考えています。

皆さんが地域の中で、渡り拍子の担い手として、今後活動してくれることを大いに期待しています。

## 県 道309号線は、小学校周辺の道幅がとても狭くなっています。危険な思いや怖い思いをさせて申し訳なく思います。

県道は岡山県が管理していて、県に確認をしました。家や川があり、今すぐに広げることが難しいですが、児童の皆さんが安心して登下校できるようにしていきたいということです。また、スピードを出さないような標識や路面表示を描くことを考えたいということです。狭い道ですから、自動車同士でも危ない思いをしたという話もありますし、通学する時に自動車を避けて側溝に落ちたりしてもいけませんから、危険な所については、側溝にふたをして広くするというようなことも考えています。

市道についても、同じように考えています。道路の巡回パトロールもしていますが、危険な箇所については、お父さんやお母さんと話をし、知らせしてほしいと思っています。道路はみんなが安心して通れるということが一番大切です。少しでも危険を減らすために、これからは県と市と一緒に、安全対策に取り組んでいきたいと思っています。

〔答弁・近藤隆則市長〕